

内田正雄譯

和蘭學制

官板

開成學校

明 留 3
196
卷

藏書

和蘭學制

世 八月六日

和蘭學制序
本邦中古盛時。有大學寮。又建

州學。至小學之設。未知其何如。
曩伯府頗修文教。然其規模未
宏。如支那。古有庠序之設。後有
州縣之學。明代學校之盛。超過

前代而教化猶未洽於民間者。小學之制未具也。爰考歐羅巴米利堅諸國崇文者。皆有小學。有中學。而又有大學。三者之中。又各有公學。有私學。蓋無地無學。無人不學。每學規制皆具。教

育之方。實有宜取者。今也開學校。事教育。天下之士。雜然環擁而至。四方之人。集於一區之場。其員與其齒。俱不可得限。而入學。以至放學之時期。亦不可得定。與夫學科之別。課試之法。固

無由立。能者不可軼而過。而不能者又不可俯而就。如此甚無謂也。頃已有建府縣學之議。又有起小學之議。若無見於此。而妄行之。有徒費而無實效。學官之過也。不可不及早豫講而熟

議之。夫本邦及支那古今之學制。可據傳記以考。而其他諸國之學制。則非通各處方言者。不可得解。嘗屢德。憑內田士恭。就和蘭法律之書。譯中小學條例。以備參照。士恭遂不勒局務之

勞。早夜起稿。不數日告竣。予受
之。瀏覽畢業。乃促上梓。因叙
明治己巳秋七月

細川習撰

中島孫書

和蘭學制序

わろは大陸國をいりしり。里^{カム}なり
の^{ミチ}を^シた^シま^シく。活^{ツサ}め^シせ^シま^シる^{コト}を。
輕島^{カロシマ}の^{アキラ}の^{ミヤ}の^シり^シ。あ^シの^シ下^シに^シ活^シ
め^シ。大^{オホ}代^{ミヨ}を^{ハシ}め^シ。代^ヨに^シみ^シ。
法^{モロコシ}越^{マナビ}の^ス学^テを^シ。捨^{ソク}て^シ。其^{ヒト}を^シ乃
惜^{ハカ}し^ムを^シ。つ^{クニ}も^シか^ヒて^シ。子^{ヒト}を

けりて。物^{モノ}まありせむむらよし。と^{チカ}まき
 せむりく。西^{ニシ}のしみのこもるる國^{クニ}に
 しみとくわんまて。目^メもあらしめる
 学^{ガク}のひらけおこるるあて。し
 童^{トホ}の神^{カミ}祖^{ミオヤ}のたひんあつる人^{ヒト}。し
 がく西^{ニシ}の国^{クニ}のありまを考^{カムガ}ふる。ま
 國人^{クニビト}れたうりま。おのうし。五^{コト}考^{カムガ}ある

ちやまの^{ニシ}王^{ミコ}等^{ナリ}れみやらるるまをいひま。し
 とくわんまて。目^メもあらしめる
 邑^{サト}を好^{アハシ}む人^{ヒト}のあはれ。外^{トツ}國^{クニ}
 のしよんいめをいひま。係^{ケイ}あひんまける。
 その流^{アカシ}まらくはあはれ。まみれり。余^ヤ
 や天^{アメ}下^{シタ}をくろもぬ民^{タミ}れ。四^{ヨモ}北^{キタ}海^{ウミ}
 せむりく。南^{ミナミ}ぬまりの^{ナリ}の。

序

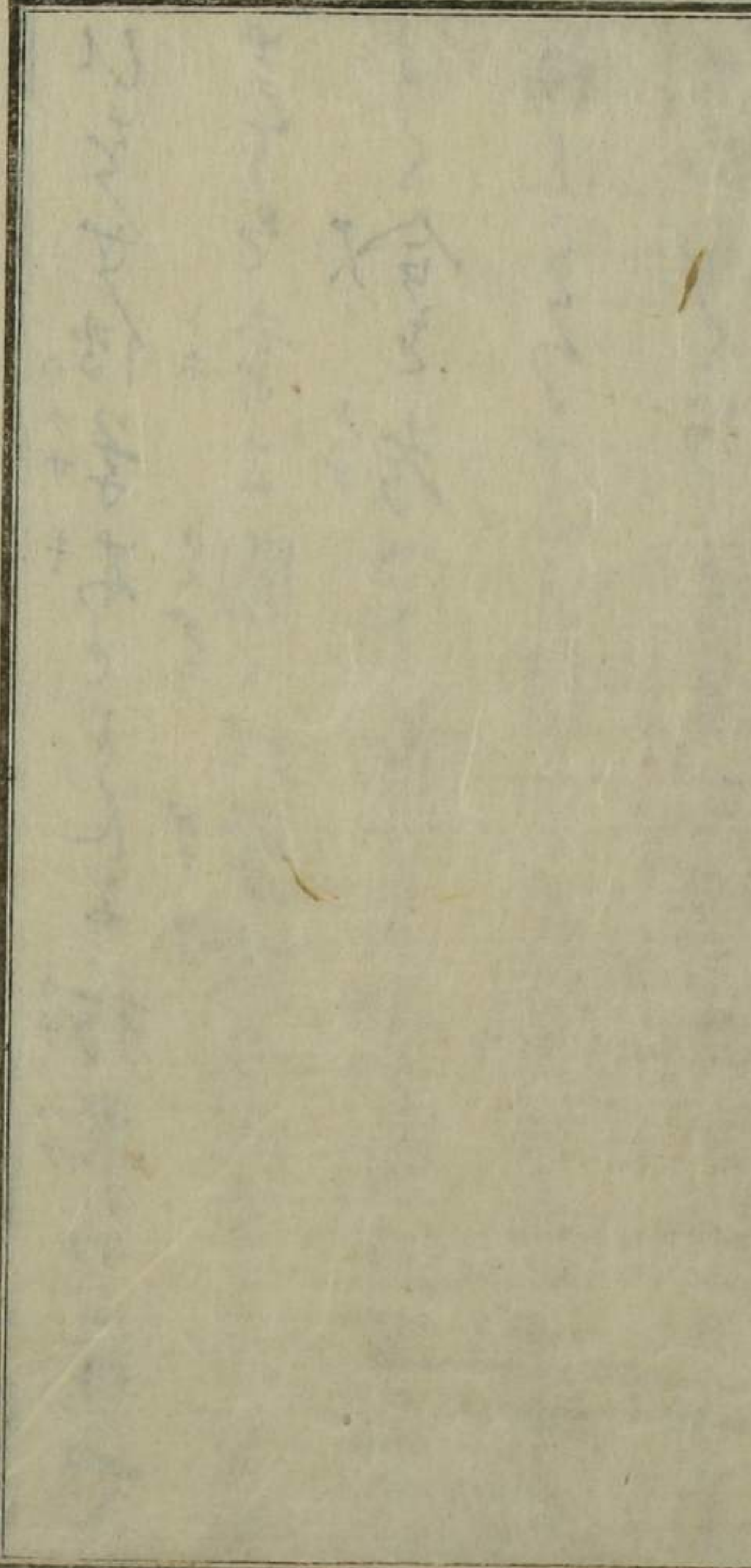
二月文集

スメオホミクニ
 皇大徳國の学をさしわらり。ろし
 ニシ
 西のつれ学をいひろくせむ。その
 よろしさを採り用ひて。その
 ミココ
 法をいひて。阿羅州學に
 跡を無し。阿羅州の物もいひ
 して。そのむねをわたりけり。は
 オホミヨ
 大徳代より。そのむねをわたり
 誰れを物といひ

ひをせ傳。学本とていふ。其果なるや。
 トホ
 として。其の國に學校のあり。そのむねを
 カムガ
 よく合を考つて。そのむねをわたり。すむ
 り。そのむねをわたり。そのむねをわたり。人
 におわたり。そのむねをわたり。そのむねをわたり。人
 トシ
 季のむねをわたり。そのむねをわたり。そのむねをわたり。人
 たり。そのむねをわたり。そのむねをわたり。そのむねをわたり。人

明治二年九月

少博士源春蔭



和蘭學制卷一

大學少丞 内田正雄 譯

小學條例

○第一項

○一般ノ規則

一章

一 小學校ヲ二種ニ區別シテ一ヲ通常ノ者トシ一ヲ稍大ナルモノトス通常ノ小學校ニ於テハ左ノ科目ヲ教授ス

- 一 素讀
- 二 習字
- 三 算術
- 四 國語
- 五 英語
- 六 地理學ノ大意
- 七 歴史ノ大意

三算術

八理學ノ大意

四文章

九唱歌

五蘭語ノ大意

稍大ナルノ小學ニ於テハ左ノ科ヲ増補ス

十外國語學ノ大畧

十一體術

十一算術ノ大意

十二圖畫

十二農學ノ大意

十三女子ノ手業

二章

一 小學ノ教授ハ學校ニ於テスル者之ヲ學校ノ教授ト云ヒ又其學ブ者ノ父母或後見ノ家ニ於テスル者ヲ家塾ノ教授ト云フ其學所ノ童幼三軒

三章

ノ家族ニ過ザル時ハ尚之ヲ家塾ト見做ス可シ

一章

一 小學校又公ト私ト二種ニ區別ス
州邑或政府ヨリ之ヲ創建シ之ヲ保護スルモノ
ヲ公ノ小學校トシ其他ヲ私學ト云フ
私ノ小學校ニ於テモ其州邑ニ必用ナルルキハ其地ノ長官ノ見込ニ因テ官ヨリ扶助銀ヲ給ス然ルキハ公ノ學校ト同シク其地ノ童幼一般ニ入學スルヲ得テ宗旨ノ嫌等無カルベシ二十三章
初段及二段ノ條例如キ此學校ニ適用ス可シ
一 學校ノ教場其地方學校視察ヨリノ生徒健剛ノ

為害有リト云フモノ其教場ヲ用ルヲ得ズ又其地ノ童子教授ヲ受クルノ數ニ比例ノ廣サ十分ナラズトスルモノ亦同ジ

右ノ如ク視察ヨリ申渡スト雖モ議論決セザルテハ州會幹事再ヒ吟味ヲ為シ之ヲ決ス可シ右視察或州會幹事ノ裁決ニ於テ不服ナルハ之ヲ裁判所ニ訴尚其裁許ヲ乞フ一ヲ得然レモ視察或州會幹事ノ申渡シヲ受タル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ訴出ルニ非レバ取上ルヲ得ズ

若シ視察ト州會幹事ト同意ニシテ其裁決入學少

年ノ父母ニ不都合ナルキハ裁判所ニ訴出ル一誰ニテモ勝手タル可シ

此裁判ニ於テ可否ヲ決スル迄ハ尚前ニ云フ所ノ教場ニ於テ教授スルヲ得ベシ

五章

一 學校ノ教授ハ師範助教及得業生ヲ以テス女子

ノ學校ハ婦人ノ師範助教得業生ヲ用ユ得業生

ハ其學術已ニ助教タル可キ試業ヲ受ク可キ者

ナレモ未ダ其年齡ニ滿ガルキハ試ヲ經テ之ヲ

任ズルヲ得ズ之ヲノ教授ノ補助ヲ為サシムル

者ヲ云フ○已ニ其年齡ニ滿スト雖モ試業ヲ受

ルノ期限至ラザルキハ其間又得業生タル可キナリ

前ニ云フ所ノ得業生試業ノ中及第セズ或ハ其

州ノ檢査之ヲ可トセザルキハ翌年試業ノ期マ

デ得業生ニテ再ヒ試ヲ經ベシ

六章

一此條例ニ舉ル所ノ舉科及身持ノ證書ヲ持ザル

七章

ハ此外ニ尚政府ノ許容ヲ受ベキナリ

一得業生其教場ノ補助ヲ命ゼラレタル學校ニ

於テスルモノ

一又一家ノ童幼ニ教授スルモノ

一教授ヲ以テ職業トセズ謝銀ヲ受ケザルモノ

小學ヲ教授スルヲ許ス

一文章學及理學數學ノ「カ」ンヂ「ダ」ト既ニ學科

ヲ經テ將ニ仕官セ及「ド」クトル大學校ニテ及

ル爵名ナリ官名ニハ非ラズ多クハ理學醫學等ノ學士ナリ大學校ニ於テ此

階級ニ上リタルモノ第一章ニ舉ル所ノ科目

ノ内ヲ教授スルヲ許ス

八章

一第四章ノ初段ニ言ヘル條例ニ背キテ小學ノ教

授ヲナスモノハ罰金五十元乃至五十元ヲ出サ
 シム再ヒ犯スモノハ罰金五十元ヨリ百元ヲ出
 サシノ且八日乃至十四日ノ間獄ニ入ル或ハ罰
 金入獄ノニヲ兼子或ハ只其一ヲ以テ罰スル
 アリ第三次以上ハ一月乃至一年入獄セシムハ
 和蘭ノ「ギユル」デシニ「ギユル」デシニ二個半
 ヲ以テ「ドル」ラシニ一個ニ換ノベシ下同
 免許ナクシテ小學ノ教授ヲナスモノハ前ニ云
 ヘル律ノ半ヲ以テ罰スベシ但シ助教タルモノ
 假ニ一學校ノ師範ニ代リ或ハ試ニ代勤スル
 六箇月ヨリ短キ者ハ罰スベキノ例ニ非ズ

九章
 一 罰金ヲ申付ルハ尚裁判者ニヨリテ之ヲ議決
 ス可シ且其罰金及裁判入費ヲ二箇月ノ内ニ出
 スヲ能ハザルハ獄ニ入テ之ニ代フ可シ五十
 元以上ノモノ代用スルニ多クトモ十四日ヲ以
 テシ五十元以下ニハ七日迄トス
 十章
 一 吟味ノ上左ノ罪状ニ定マラルモノハ小學教授ヲ
 為スヲ禁ズ
 一 重罪有ルモノ
 一 盜ヲ為シ人ヲ誹シ盟約ヲ破リ身持惡シキ箇
 條ノモノ

十一章 罪ニヨリテ小學教授ヲ禁ゼラレタルモノ決シ

テ再ビ之ヲ掌ルヲ得ズ然レモ二十二章第七段
及三十九章ニ舉ル所ノ如キハ時トノ政府ヨリ
再ビ之ヲ許スヲ有ル可シ

十一章 教授タルベキ者ヲ習業セシムル為メニハ國內
二箇所ノ養誠學校生徒ヲ養成ス或ハ有名ナル
小學校ニ於テ十令ナル藝古ヲ受ケシム

小學校ノ教授及女教授ハ成ルベキ丈ケ國ノ學
校ニテ成業セシム
十一章 此條令ニ從テ州會幹事ヨリノ決定ハ尚政府ニ

於テ之ヲ吟味スルヲ得可シ

十四章 此條令中教授ニ付テノ規則ハ女教授ニモ用ユ
可シ
十五章 此條令ハ左ノ者ニ適用セズ

一 第一章科目四圍固圍ノ内其一科ノ為メニ設
ケタル學校ニ於テ之ヲ教授スル者
一 兵學教授及ヒ兵士ニ授クル學業

○第二項

○公學校

△第一學校ノ事

十六章 全國各村ニ小學ヲ設ク一村一學校ニシテ足ラザルキハ數箇ヲ設ク其村中ノ人口ニ應ノ十分ニ之ヲ備ヘ宗旨ノ區別ナク村中童幼一般ノ用ニ供ス可シ

教授ノ科目ハ少クトモ第一章曰ヨリ九迄ノ學科ヲ授ク可シ且其進歩ニ從ヒ田ヨリ園迄ノ學科中ノ一二ヲ増加シ或盡ク之ヲ教授ス可シ便宜ニヨリ近隣二三ノ村落ト合併メ一ノ學校ヲ起シ共ニ之ヲ保護シ之ヲ通用スルヲ有ルベシ

一 邑會ニ於テ學校ノ數ヲ議定ス而ム之ヲ州會幹事ニ報告ス可シ

○州會幹事ニ於テ其數不足ナリト察スルキハ之ヲ促メ學校ヲ増建セシム可シ

若シ政府ニ於テ學校ノ數不足ナリトスルキハ令メ之ヲ増サシムルヲ有ベシ

前章第二段ニ云フ所ノ學科ヲ擴張スルヲニ於テモ同様ニ州會幹事或政府ヨリ之ヲ促メ増加セシムルヲ有ベシ

△第二教授ノ事

十八章

一 學校ノ生徒七十員ニ過ルキハ師範一人ニ得
 業生一人ヲ加フ百人ニ過ルキハ又助教一人ヲ
 加フ百五十人以上ハ助教一人得業生一人ヲ増
 加ス如此ニ又五十人ヲ増ス毎ニ得業生一人、百
 人ヲ増ス毎ニ助教一人ヲ附属シ之ヲ教ヘシム
 一 師範タル者ハ之ガ居宅ヲ供シ成ベキ尺ケ庭園ヲ附ス庭園歳俸
 ヲ給ス
 若シ其居宅ヲ供シ難キハ適宜ノ借宅費用ヲ
 附予ス可シ此費銀ノ多少邑會ノ議ト師範ノ望
 △ 所ト異ルキハ州會幹事之ヲ決ス

前章ニ云フ所ノ得業生ニ給スベキハ師範ニ附
 予シテ之ヲ頒給セシム

助教モ亦歳俸ヲ給ス

右歳俸及賜銀ハ邑會ヨリ州會幹事ノ許可ヲ經
 テ決定ス

師範ノ歳俸ハ四百元ヲ少キノ極リトシ助教ハ
 二百元ヲ極少トシ賜銀ハ二十五元ヲ極少ノ數

十九章

一 村落ノ地勢ニ因リ人家處々ニ散居シ他村ノ比
 例ヨリモ數多キ學校ヲ要スルキハ州會幹事ノ

許可ヲ經テ之ヲ設ケ一ニノ學校ヲ通勤ノ司ル
トコロノ師範或助教ヲ置ク可シ此歲俸二百元
ヲ極少トス

三章

一師範或助教タル者左ノ證書ヲ持ス可シ

一學校教授タルベキ學術成熟ノ證書

一行狀善良ノ證書ニ箇年以來住居セシ所ノ邑

三章

長ヨリ與ヘシモノ

一師範ハ邑會ヨリ之ヲ命ズ且邑長及副官ヨリ其

人ヲ撰ミ少キハ三人多キハ五人ノ内ヨリ學校

視察ト共ニ學業ヲ試ミ比較ノ上其充宜キ者ニ

定ム試學ノ法學校視察ニテ之ヲ司リ或之ト共
ニ邑長及副官ノ列席ニ於テス又ハ其一人ト其
地ノ學校監督ト會シ之ヲ試ム邑會ノ官員此試
ニ列席スルヲ要ス

助教モ亦邑會ヨリ命ズ邑長及副官ヨリ三人ヲ
撰ミ師範及學校視察ト議ノ其中ヨリ之ヲ定ム
師範及助教ハ邑長及副官ヨリ職務ヲ差止メ置
クトヲ得可シ但學校視察承諾ノ上ニ在ル可シ
然ルキハ其決議ヲ至急ニ邑會ニ報告ス可シ
師範及助教ノ職務ヲ免スルトハ邑長副官及視

察ノ決議ニヨリ邑會ヨリ之ヲ免ス本人ヨリ免
職ヲ乞フ時ハ直ニ邑會ニ於テ之ヲ所置ス可シ
職務ヲ免シ或之ヲ差止メ置クハ學校視察或ハ
監督ノ見込ニ於テ之ヲ要シ邑會ニ於テ同意セ
ザルキハ州會ニ於テ之ヲ議決ス可シ
職務ヲ差止メ置クハ永ク共三箇月ヲ過ク可
カラズ其間俸金等ヲ予ヘ置キ之ヲ行フハアリ
又ハ半減シ或全ク之ヲ附與セザルハモ有ル可
シ
職務ヲ免スルハ不良ノ行状ニヨリ或教導不法

ニノ風俗ヲ破リ國法ヲ犯スヲ勸ル類ノ如キハ
州會ニ因テ教授ヲ禁ス可キ者ト議決ス
得業生ヲ命シ或之ヲ免職セシムルハ學校視察
ノ許可ヲ經テ師範ヨリ之ヲ施行ス
師範及助教ノ職務ヲ免シ或ハ差止メ置クハ
邑長及副官ヨリ師範ノトキハ學校視察ト談シ
助教ノキハ師範ト談シテ暫時缺職ニ代リノ人
ヲ以テ定ムベシ此師範ノ職ハ永クトモ六箇月
以内ニ缺ヲ補フ可シ
一學校ノ教授ハ肝要ナル學術講習ニヨリテ童蒙

ノ知識才カヲ發達シ教授ヲ為ラ篤クスルニ
導クヲ要ス故ニ教授ヲ為スモノ善ク之ニ注意
ノ教導ス可キヲ禁止ス可キヲ心術風化ニ利害
得失アルヲ取捨ス可キナリ

宗旨教法ヲ講授スルハ其教法會社ニ委任シ
學校課業時限ノ外ニ於テ教場ヲ通用スルヲ許

二十四章

一師範及助教タル者ハ州會幹事ノ許可ヲ經ルニ
非レハ決メ他ノ職務或使令ヲ命ズルヲ無カル
可シ州會幹事モ亦兼テ邑長及副官ニ聞合セ且

人口三千以上ノ邑ニ於テハ其地ノ學校看督其
以下ノ邑ニ於テハ學校視察ニ聞合セノ上許可
ス可キナリ

師範及助教決シテ商賣ヲ為スヲ許サズ且他ノ
職業ヲ司ルヲ得ズ且其家族ト雖モ同シク之ヲ
禁ズ然レドモ是ハ師範助教ノ家ニ於テ商業ヲ
營ムヲ禁ズルナリ

二十六章

一師範及助教ハ次章ノ規則ニ從テ政府ヨリ隱居
料ヲ給ス
隱居料ヲ受クベキ定則ハ六十五歳ノ年齢ニ至

リ在職四十年ニ滿テ過失無クノ免職シタル者
 タルベキナリ
 在職十年以上ニノ身體及精神ノ病症ニ罹リ職
 務ヲ掌ルヲ能ハザルハ免職シテ隱居料ヲ受
 クベシ如此病症ニヨリテ免職スルハ學校視
 察及州會幹事ノ辨解ニヨリテ許容スベシ隱居
 料ヲ受クベキ在職年限ノ算計ハ此條令ニ於テ
 師範及助教ヲ勤メタル年數及ビ官ノ小學校ニ
 於テ教授ヲ命ゼラレタル所ノ年數ヲ合セ算シ
 若シ過失有リテ免職セラレタル者ハ隱居料ヲ

受ルヲ能ハズ

一^{二十七章}隱居料ノ増スハ毎歲ノ勤務ニ應シテ其俸金
 六十分ノ一トス即過失無クノ免職セシ年十二
 箇月ノ俸金ノ數ニ隨フ而メ其多少ハ二十八章
 ノ規則ニ從テ隱居料積金ノ内へ出銀セシ所ニ
 基クベシ然レモ決シテ此歲俸三分ノ二ヲ過グ
^{二十八章}ベカラズ
 一^{二十八章}隱居料積金ハ師範及助教ヨリ毎歲其俸金百分
 ノ二ヲ納ムベシ此條令布告ノ年月ヨ此出銀ハ
 邑長諸官精算ヲ遂ゲ政府ノ金藏ニ納ム

二十九章

一此條令ニ從テ師範及助教ニ隱居料ヲ給スルキハ其邑ヨリ隱居料ノ三分一ヲ政府ニ償ヒ納ムベシ

三十章

一千八百四十六年五月九日ノ諸規則及千八百五十一年五月三日ノ規則中隱居料ノ條ヲ參考スベシ

第三教授費用

三十一章

一都テ小學校ノ入費ハ其邑ヨリ之ヲ出スベシ且他ノ仕法有テ之ニ供スルキハ其不足ノ部令ヲ邑ヨリ補ヒ出スベシ

三十二章

一前章ニ云トコロノ入費ハ左ノ諸件ヲ云フ

- 一 師範及助教ノ歳俸
- 一 得業生ニ給スル所ノ賜銀
- 一 學校創建及修理ノ入費或借家ヲ用ルキハ其賃銀
- 一 諸道具代金及修理ノ入費其他教場書籍生徒必用ノ諸品
- 一 教場ニ用ル薪炭燈油ノ費
- 一 教官居宅創建及修理ノ入費或借家ノ賃銀
- 一 師範ニ供スル居宅無キ時ニ與ルトコロノ償

銀

一 教官隱居料ノ為ニ邑ヨリ出ス所ノ割合金

^{三三章}一 其土地學校出役ノ入費

一 前章諸入費ノ一部ヲ補フ為メニ學童各員ヨリ

割合金ヲ出サシム

一 貧窶甚シク此割合金ヲ出スル能ハザルモノハ之ヲ免ス

各邑ヲ支配スル者注意ノ可成丈ケ右貧民ノ兒

^{三十四章}童學校ニ來リ學ブヲ要スヘシ

一 學校割合金ヲ出サシメ或變革ヲ加ヘ又ハ之ヲ

開成學校

一 除クテ千八百五十一年六月二十九日ノ條例ヲ

参考シ之ヲ行フベシ

一 同等ノ學童ハ同數ノ割合金ヲ出サシム二人或

三人以上ノ童子一ノ家族ニメ同シ學校ニ學ブ

者ハ割合金ヲ下等ニ定ムルヲ得ベシ

^{三十六章}一 各邑ニ適宜ノ小學校ヲ創建シ之ヲ以テ教化ヲ

進ムルヲ必用ナレ其費用其邑ノ力ニ應メ重キ

ニ過ルルハ州會及州會幹事ト謀リ政府ヨリ其

事實ヲ探索ノ邑ヨリ費用ノ一部ヲ出サシメ其

他ハ州用及國用ヲ以テ半バヲ出シ之ヲ補フ

ヲ定ムベシ

○第三項

△私學ノ事

三十七章

一私學家學ノ教授ヲ為スモノ必ズ左ノ證書ヲ持スベシ

一教授スル學科ノ免許狀

一二十一章第二段ニ舉ル所ノ證書

一右二箇條ノ證書其教授ヲ為ス土地ノ邑長及

副官一覽ヲ經テ之ヲ許可シタル證書

三十八章

一前章第三ノ證書ヲ與フルト本人ヨリ申立タル

日ヨリ四週日ノ間ニ可否ヲ決シ邑長及副官ヨリ所置スベキトナリ若此日限ノ間ニ可否ヲ決セザルハ本人ヨリ州會幹事ニ訴ヘ裁決ヲ請フヲ許ス

州會幹事若シ其地ニ在ラズ或六週日ノ間ニ可

否ヲ裁決セザルハ政府ニ訴出ルヲ許ス

三十九章

一私學家學ノ教授ヲ為ス者若シ教導不法ニノ風

俗ヲ壞リ或國法ヲ犯スヲ勸ルニ近キト有ルハ

邑長及副官學校監督視察ノ報告ニ從テ州會

幹事之ヲ裁決シ其本人教授ヲ為スヲ禁斷ス

僱暴不良ノ行状有ル者モ亦此條令ニ從テ同様ニ所置スベシ

○第四項

△教授ヲ為ス可キ學業免許状ノ事

一^{四十一}學校教授及家學ノ教授ヲ為ス可キ學業ノ免許

状ハ^{四十一}試業ヲ以テ之ヲ得可シ

一^{四十一}每歲兩度各州ニ於テ出役ヲ命シ試料ニヨリテ

免許状ヲ出サシム

此出役ハ學校檢査一人學校視察四人ヲ以テス

○此出役各州ノ都府ニ於テ會合シ試ニテ為ス

ニ諸術ノ大家ヲノ列席セシムルヲアリ○此出

役ノ為メ學校視察ヲ撰定シ及ビ會合ノ時日ヲ

定ル^一内國事務宰相ヨリ所置ス可シ試業ハ公

ニ之ヲ行ヒ更ニ之ヲ秘セズ只女教授タル者ハ

入ル^一ヲ許サズ

一^{四十一}試業ノ時日ハ公ニ之ヲ掲ケ預メ國中一般ニ布

告ス可シ

試ヲ受ント欲スル者ハ期日ニ先テ其地方ノ

學校視察ニ告ク可シ或外國ヨリ來リ其地方ニ

居住セント欲スル者亦同シ皆乞フ所ノ證書ヲ

書記シ出ス可シ
 右ノ試ヲ受クル者預メ行状善良ノ證書及ヒ其
 出生郷里ノ證書ヲ出ス可シ
 試業ノ期日及地名等學校視察ヨリ兼テ其人ニ
 報知ス
 試業ハ其本人居住ノ州ニ於テシ外國ヨリ来リ
 シ者ハ其居住セント欲スル所ノ州ニ於テスベ
 シ
 一兼テ期スル所ノ年齢ニ充テタル者ニ非レバ試
 業ヲ受クルヲ許サズ

家學教授婦人ノ教及助教
 師範同婦人ハ二十三才ヨリヲ規則トス
 一助教タル可キ學業ノ免許状ヲ得ル為メニハ左
 ノ科目ノ試ヲ經可シ婦人助教亦同シ
 一讀ニ方書キ方ヲ良クスル事
 一文法字句ヲ分別シ綴字ノ規則ニ通シ蘭語學
 ノ大畧ニ通ズル事
 一文字或言語ヲ以テ適當簡便ニ應答辨論ヲ為
 ス
 一文章ノ大意

- 一 算術初等ヨリ分數ニ至ル之ヲ尺度權衡貨幣等ノ實地ニ用ユ助教タル者ハ尚此外比例法ニ通ズ可キ事
- 一 地理及歴史
- 一 理學ノ大畧
- 一 歌謡ノ學問
- 一 教育ノ大意
- 一 婦人ノ師範タル可キ學業免許狀ノ試ハ助教ノ試ト同シ然レモ一層深ク研究ノ師範タル可キ學力有ルベキナリ

四十六章 師範タルベキ學業免許狀ノ試ハ其科目助教ノ試ト同シ然レドモ一層深ク研窮シ廣ク含蓄ス可シ

四十七章 前三章ニ舉ル所ノ免許狀ヲ望ム者或ハ已ニ得タルモノ其本人ノ乞フニ任セテ尚第一章^四ヨ

四十八章 國迄ノ一二ノ試ヲ受ケシム

一 家學教授^{同婦人}ノ免許狀ヲ得ル試ニ於テハ更ニ又第一章中諸科ノ一二ヲ試ム其學力助教ト同ジカル可シ

四十九章 一 都テ試業ヲ受ルモノ其出役ノ鑒識ニ適シテ差

繆無ク之ヲ終ルルハ望ム所ノ免許狀ヲ本人ニ
附與ス

學校教授ヲ為ス可キ免許狀ノ中ニ尚稍大ナル
小學ニ屬スル科目ヲ書記シ試業ヲ終リタル
ヲ載ス

家學教授ノ免許狀モ亦右ニ同シク他ノ科目ニ
於テ試業ヲ終リタル事ヲ記載ス

五十五章

一 學業免許狀ヲ受ル者左ノ如ク銀ヲ納ムベシ

一 師範ノ免許狀ハ十元ヲ納ム助教ハ五元家學
教授ノ數科ニ於ルモノ亦五元只一科ニ於ル

者ハ三元ヲ納ムベシ

婦人ニノ女學教授ノ師範、助教、家學教授タル
者銀ヲ納ルノ數男子ト同シ

一 最初ノ免許狀ハ學校教授ニ於テ三元家學教
授一科ニ於ルモノ二元家學教授數科ニ於ル
者ハ銀ヲ納ルヲ要セズ

此銀數ハ出役會合ノ諸入費ニ供ス且諸學ノ大
家ヲノ席ニ臨マシメタル片ハ之ニ附與スル謝
銀モ亦之ニ屬ス其餘ハ政府金藏ニ納ムベシ
一 學業免許狀ハ國中普通ノモノトス且學校教授

ノ免許状ハ家學教授ニ通用ノ妨無ルベシ家學教授ノ免許状ニ於テ尚第一章三及四ヨリ固ニ至ル諸科ノ一二ヲ學校中ニ教フルヲ許ス師範ノ免許状ハ助教ノ業ヲ司リテ妨無キ證タルベシ

第二十章ニ舉ル所ノ外助教ノ免許状ニ於テ政府ノ許容ニ從テ公學校ノ學頭ヲ司リ妨無キヲ許スベシ

○第五項

學校看察ノ事

五十二條

教導ノ事務ヲ監察スルハ内國事務宰相ヲ總

督トノ其下ニ左ノ者ヲ命ズ

- 一 邑内學校監督
- 一 地方學校視察

五十三條

一 州内學校檢査

各邑必ズ學校監督ヲ置ベシ然レモ十六章第三段ニ云フ如キ兩邑通用ノ學校ヲ設クルモ又

五十四條

兩邑ニ兼用スル所ノ監督ヲ置クベシ

一 人口三千以下ノ邑ニ於テハ學校監督ノ事業ヲ邑長及副官ヨリ兼勤セシム其他ノ邑ニ於テハ

邑會ニ於テ議ノ監督ヲ命ス監督官負ノ内邑會ヨリ兼勤スル事妨無カルベシ

五十五章

一各州學校ノ位置ニ因テ學校ノ地方ヲ區別ス各ノ地方ニ一ノ學校視察ヲ置テ之ヲ看察ス視察事故有テ其地ヲ去リ或疾病死去ノキハ内國事務宰相ヨリ代人ヲ命ズ

五十六章

一學校視察ハ六年ヲ期限トノ政府ヨリ之ヲ命ズ期限滿テ官ヲ解ク者再ビ之ヲ撰舉スルヲ得ベシ且在職中ト雖モ政府ヨリ之ヲ免スルヲ得ベシ

五十七章

一學校視察ハ政府ヨリ預メ巡察中旅行滯留スル入費ヲ給ス

五十八章

一各州ニ一負ノ學校檢査ヲ命ズ檢査ハ政府ヨリ之ヲ命ズ又之ヲ免スルヲ得ベシ且政府ヨリ歲俸及旅行入費ヲ供ス

五十九章

一每歲一度内國事務宰相ノ命ヲ以テ國內ノ檢査ヲ會合シ共ニ小學教導ノ形勢及肝要ノ事務ヲ斟酌辨論シ學業ノ進歩ヲ集議ス

六十章

一學校檢査ハ政府ノ許シ無クノ決シテ他ノ職務ヲ司ル事無カルベシ

六十三章 一學校監督視察検査ノ負ニ入ル者其職務ヲ余ゼラル、ノ時盟ヲ為シ私意ヲ去リ信實ニ職掌ヲ奉ズベキヲ誓フ此盟約ヲ為スノ人口三千以上ノ邑ニ於テ學校監督ハ邑長ノ前ニ於テ其他ノ邑ニ於テハ地方裁判者ノ前ニ於テス又學校視察ハ其州奉行ノ前ニ於テ検査ハ内國事務宰相ノ前ニ於テス

六十四章 一學校看督視察及検査ハ其預ル所ノ小學校ニ注意シ若此條令ニ背キ或其他ノ小學校ニ關係シタル規則ヲ犯スノ有ル片ハ直ニ書面ヲ以テ建白

六十三章 スルヲ要ス

一公私ノ區別ナク小學校ヲ教授スル學校ハ常ニ其邑ノ監督其地方ノ視察其州ノ検査コレニ出入スルヲ得ベシ○學校及教育ノ事務ニ於テ問フ所有レハ教官詳ニ之ガ辨解ヲ為ス可シ○若此規則ニ背キ辨解ヲ為スヲ拒ム者ハ罰金二十五元ヲ出サレム或三日ノ間獄ニ下スベシ若再之ヲ犯ス者ハ罰金ト獄トヲ併セ施スベシ

六十四章 一邑内學校監督細密ニ其邑内諸所ノ小學校ニ注意シ之ヲ監察シ少クトモ周歲ニ兩度學校ニ來

リ巡察スベシ而ノ嚴ニ小學ノ條令規則ヲ正シ
 齟齬スルヲ無カラシム且教官及生徒ノ多少教
 育ノ情實等ヲ筆記シ每歲三月一日ニ見込書ヲ
 添テ之ヲ邑會ニ呈シ其邑内學校ノ情態得失ヲ
 建白シ別ニ一通ヲ地方巡察ニ呈シ學校内肝要
 ノ變革ヲ報告ス若シ巡察或検査ヨリ問トコロ
 有レハ詳ニ之カ辨解ヲ為ス可シ或教官ヨリ學
 校事務ニ付テ請フ所有レハカヲ合セ補助ヲ為
 シ教化ノ進歩ニ勉勵ス可シ

六十五章
 一 學校視察ハ其管スル所ノ地方諸小學校ニ注意

ノ常ニ情實ヲ明了ニス可シ且少クトモ周歲兩
 度其地ノ諸學校ヲ巡察ノ親ク事務ヲ研究シ條
 令規則ヲ正シ齟齬スルヲ無カラシム且其邑ノ
 長官或監督ト會ノ之ヲ議シ又其州ノ學校検査
 ニモ教育ノ事務ニ於テ肝要トスル所ヲ申告シ
 巡察中見聞スル所ノ要事ヲ報ズ且検査ヨリ詳
 ニ問ハント欲スルヲ有レハ大小トナク之ヲ辨
 解シ每歲五月一日其管スル所ノ學校ノ情實得
 失等ヲ記録シ着眼スル所ノ辨解ヲ附ノ之ヲ其
 州ノ學校検査ニ呈シ別ニ一通ヲ州會幹事ニ送

ル可シ且又教授ノ要務ヲ勉勵セシメ其集會ヲ

六十六章

促シ多クハ其席ニ臨ミ共ニ會議ス可シ

一學校視察ハ其管スル所ノ地方ニ於テ諸監督ノ

六十七章

會議席ニ出入シ助言ヲ出スヲ得可シ

一學校檢査ハ學校ヲ巡察シ或說話或書簡ヲ以其

地ノ監督視察邑長官ニ學校ノ改革教育ノ進歩

等ヲ議スベシ且學校事務ニ於テ大小トナク内

國事務宰相ヨリ意見ヲ問フ所アレバ之ヲ建議

ス可シ且學校視察毎年ノ筆記及ビ巡察スル所

ノ經驗ニ付テ州内學校ノ形勢情實ヲ記録シ意

見ヲ加ヘ毎歲七月一日之ヲ宰相ニ呈ス可シ

和蘭學制卷一終

